

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.128

2024.3.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.128 目次

施設紹介—大牟田市動物園	2-3
サシバと共生するまちづくり	4-7
令和5年度油等汚染事故対策水鳥救護研修報告	8-9
令和6年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」	10
書籍紹介—「コウノトリと暮らすまち」(佐竹 節夫 著)	11
事務局日誌	11-12

大牟田市動物園



西日本メンテナンス株式会社 動物園事業部 獣医師 末廣 桃 恵

【大牟田市動物園について】

大牟田市動物園は福岡県最南の大牟田市にあり、九州で5番目の市立動物園として、1941年に「延命動物園」の名で開園しました。

1956年に「大牟田市動物園」に名称変更し、2006年に西日本メンテナンス株式会社が指定管理者となり、2021年には開園80周年を迎えました。総面積44,000m²の敷地に、2024年2月現在42種171点の動物を飼育しています。



大牟田市動物園

当園は「動物福祉を伝える動物園」というコンセプトのもと、環境エンリッチメント^{*1}とハズバンダリートレーニング^{*2}を二本柱に、日々動物たちの生活の質の向上に取り組んでいます。

^{*1}環境エンリッチメント：動物たちが心身ともによりよく生活できるよう、環境を豊かにするための工夫のこと。

^{*2}ハズバンダリートレーニング：動物の心身の健康管理など、飼育上必要な行動を動物たちに協力してもらいながら行うトレーニングのこと。

【鳥獣保護管理事業】

当園では、福岡県と佐賀県より鳥獣保護管理事業の一部を業務受託し、保護された傷病野生動物の収容、治療・リハビリ、放野を行っています。対象となった動物は、動物病院と施設を同じくする「傷病野生鳥獣医療所」で治療を受け、病院内の入院室および園内の傷病舎に向けてリハビリを行っています。

傷病野生動物が保護された場合、まずはお電話で状況（動物の状態、誤認保護ではないか、保護の対象であるかなど）を確認させていただき、当園で対応可能な場合に受け入れを行います。近年問題となっている、高病原性鳥インフルエンザが流行している時期は、感染症対策のため受け入れを停止しています。



傷病野生鳥獣医療所

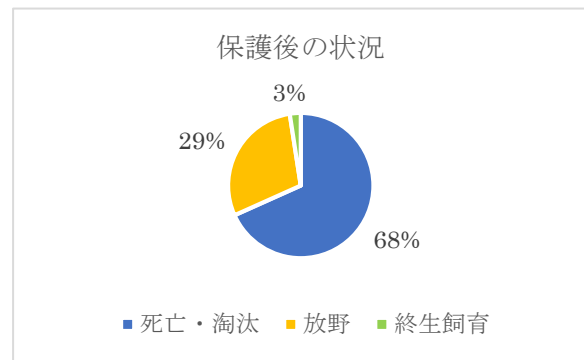
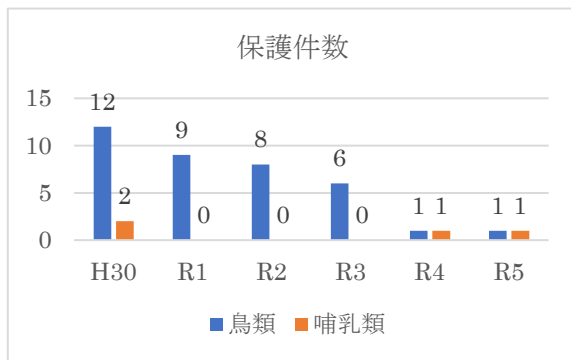


動物病院内の入院室



園内の傷病舎

【傷病鳥獣保護の実績と取り組み】



当園での実績は少ないですが、過去6年間の保護件数とその後の状況をまとめました。平成30年度は14件あったものの、高病原性鳥インフルエンザの流行に伴い、年々件数は減少しています。主に鳥類が保護され、近年はハヤブサやトビなど身近な猛禽類に加え、有明海に近い環境ということでミサゴが保護されることもありました。保護理由は衰弱や外傷・骨折が多く、すべての動物が野生復帰可能というわけではなく、約7割は野生復帰を望めず死亡・淘汰されています。普及啓発活動としては、当園のブログ(サファリな連中)にて傷病鳥獣のお話というタイトルで、放野できたケースと淘汰されたケースを紹介しております。また、来園者の皆様に取り組みを知っていただけるよう、園内の傷病舎前に普及啓発看板を設置しました。以下に実際に保護された動物と看板を写真で紹介いたします。



巣立ち直後のカワセミの幼鳥



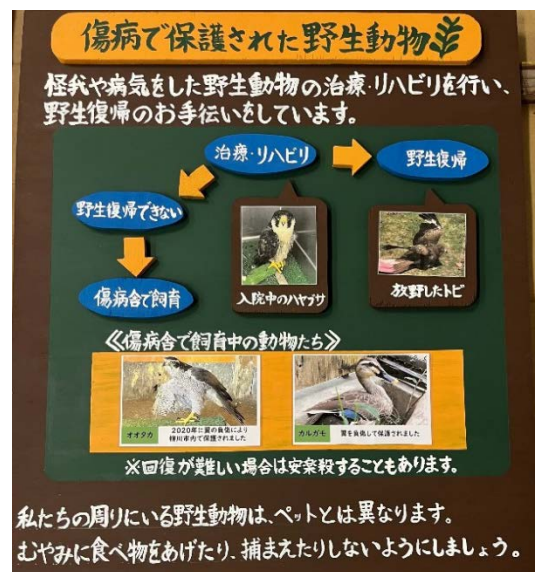
骨折の治療中のハヤブサ



後肢を骨折したタヌキの幼獣



回復し放野したトビ



傷病舎前の看板

【現状や今後の課題】

私が常に考えるのはその子にとって何が最善か、ということです。当園では獣医師が保護動物の対応に当たっておりますが、保護件数が少ない分、経験が乏しいという課題があります。そのため、日々成書に学び、諸先輩方、時には近隣の臨床獣医師の先生方にご協力を頂きながら保護をしております。野生復帰できないことが多い中、その分、野生復帰できた場合はひとしお嬉しく思います。

また、当園の保護動物の収容スペースは少なく、希少動物であっても、野生復帰ができない動物の終生飼育は厳しいです。悔しいですが淘汰せざるを得ません。しかし、余裕のある他施設との連携ができれば、場合によっては教育普及や繁殖の面で活躍できるのではと考えています。

サシバと共生するまちづくり

NPO 法人 オオタカ保護基金 遠 藤 孝 一

サシバとは

サシバは全長約 50 cm、翼を広げた長さは約 110 cm で、カラスより少し小さいタカです。体や翼の上面は赤身のある褐色をしており、雄の顔は灰色で、雌には白い眉斑があります。

中国北東部、朝鮮北部、日本などで繁殖し、秋になると中国南部や東南アジアなどに渡って越冬します。日本では、東北地方から九州地方の低地の農村地帯から山地の森林地帯に、夏鳥として渡来し繁殖します。南西諸島の一部では越冬するものもいます。

日本での繁殖期のサシバの生息環境の多くは、いわゆる里山環境です。そのような環境で、サシバはカエル類、ヘビ類、トカゲ類、昆虫類、ネズミ類など、様々な小動物を獲物として暮らしています。サシバは、里山生態系の頂点に位置する捕食者であることから、「里山の指標種」とも言われています。

近年、日本においてはサシバの生息数が激減しています。毎年秋に沖縄県宮古島市を南下するサシバのカウント調査では、1980年代は2~4万羽だったものが、近年では1~2万羽になってしまいました。そこで、2006年には国のレッドリストで「絶滅危惧Ⅱ類」に指定されました。日本においてサシバが減少した理由としては、開発による生息地の消失、農地整備による餌動物の減少、耕作放棄による狩り場の減少などが指摘されています。



田んぼで獲物を探すサシバ



飛行するサシバ

サシバの里「市貝町」

そんな絶滅危惧種のタカ・サシバが、高い密度で生息している地域が市貝町です。市貝町は、北関東の栃木県東部に位置する面積 64 平方キロメートル、人口 1 万 1 千人の里山が広がる小さな町です。

オオタカ保護基金の調査によると、2009年には25 km² (5 km四方) で26つがいの生息が確認されており、この密度は日本一と言われています。

市貝町やその周辺にサシバが高密度で生息しているのは、二つの理由があります。一つ

目は、地形です。地形が入り組んでおり、丘陵地に食い込むような細長い田んぼ（谷津田）が数多くあるからです。谷津田は林に接する部分が多く、サシバの獲物になる小動物が多い上、営巣木に適した木も豊富です。二つ目は、農林業です。このような場所は、作業効率が悪いので利用されなくなることが多いのですが、市貝町では水田耕作が長く営まれてきました。また、高級な茶道用の炭である「菊炭」の原料となるクヌギや、シイタケの「ほだ木」として利用されるコナラが丘陵地で生産されていたことから、林業も盛んでした。

このような地形的な特徴と農林業の営みが、サシバが密度高く生息できる里山環境を維持してきたのです。しかし、里山環境を作り、維持してきた農林業は、近年では農林業家の高齢化や減少によって衰退しつつあります。耕作放棄された水田や、利用されなくなった山林が増えており、人とサシバが共に暮らせる豊かな環境と誇れる地域を、未来にどう伝えていくかが、地域の大きな課題となってきました。そこで、オオタカ保護基金では、サシバと共生する地域づくりを町に提案して、協働でそれに取組んでいます。

「サシバの里づくり」

市貝町では、サシバがすむ自然豊かな里山を貴重な地域資源として位置づけ、それを生かしながら農林業などを中心とした持続可能な産業を発展させて、まちを次の世代に繋げていく取組みを2010年から始めました。それが「サシバの里づくり」です。コンセプトは「サシバが舞う里地里山を基盤に環境と経済を好循環させることで、まちを次の世代につなぐ」です。2013年度には「サシバの里づくり基本構想」（2014年度～18年度）、2018年度には「第2次サシバの里づくり基本構想・実施計画」（構想：2019年度～28年度、計画：2019年度～24年度）を策定しました。

ここで、「第2次サシバの里づくり」について、概要を紹介します。まず、まちの将来像を「サシバが舞う豊かな里地里山が広がるまち」などとし、その目標を達成するための具体的な取組みとして、（1）豊かな里地里山環境を維持し増やす施策、（2）里地里山を活かした安心安全な農林業を増やす施策、（3）里地里山と共生した持続性のある産業を増やす施策、（4）地域に誇りと愛着ある人を増やす施策、（5）里地里山保全と経済活動を循環させる施策の5項目に分け、さらにそれを22の具体的な町の施策に落とし込み、活動を進めています。以下に具体的な例をいくつか紹介します。

サシバの里協議会と道の駅「サシバの里いちかい」

サシバの里協議会は、基本構想で示された取組みを、民間レベルで進めるために設立された組織です。2014年に農家・商工業者・役場・道の駅・環境保護団体などで設立され、都市農村交流促進事業、里山保全事業、人材育成事業、観光まちづくり事業を行っています。田植えや野菜収穫などの「農業体験」や、「サシバの里めぐり」などのグリーンツーリズムが主要な活動です。里めぐりとは年3回、里山にある民家の縁側や庭などを観光客に開放して、お茶などを飲みながらのんびり過ごしてもらおうイベントで、4月、6月、11月の年3回開催しています。コロナ禍の期間中は開催を中止していましたが、その前の2018年には延べ1000人が訪れ、再開した2023年も延べ700人が訪れるまでに回復してきました。市貝町の里山や農村景観を生かした新たな観光として、今後が期待されます。

協議会の発足と同じ時期にオープンしたのが、農産物の直売や体験活動の拠点となる道の駅「サシバの里いちかい」です。直売所や観光案内所（市貝町観光協会事務所）などとともに、サシバや里山を紹介するコーナーもあります。直売所では2019年から、農薬や化学肥料を抑えた「特別栽培米」と、無使用の「有機栽培米」の2種類のブランド米「サシバのふるさと」が販売開始されました。



農業体験（田植え）



サシバの里めぐり

サシバの里自然学校

オオタカ保護基金も、「サシバの里づくり」に連動して、2016年に道の駅近くに里山の保全と利用を進める「サシバの里自然学校」を開設しました。ここでは、田畑や山林を生きものの生息場所として復元・保全し、生きものを育む農林業を営みながら、自然体験や農業体験の場として活用しています。開設から8年目を迎え、現在では年間延べ1300人ほどの子どもや家族が訪れる施設になりました。子どもを対象とするプログラムとしては、サシバを観察したり、田んぼの生きものを観察したりする「生きもの塾」、秘密基地づくりなど自然の中で自由に遊ぶ「野遊び学校」、宿泊して里山や川で遊ぶ「宿泊キャンプ」などがあります。家族を対象とする「農的暮らし講座」では、親子で春の田植えから、夏の草取り、秋の稲刈りまで、一連の米作りの作業と里の暮らしを体験します。



サシバの里自然学校での生きもの探し



サシバを観察する子ども達

新たな施策

上記に加えて、サシバの里づくりを推進する最近の動きとしては、以下のようなことがあげられます。

一つ目は「(仮称) サシバの里 里地里山保全創造条例」。市貝町のサシバをはじめ多様な動植物を育む豊かな里地里山を保全し、人と自然が調和した環境を創造するための条例で、2023年度中の制定を目指して策定中です。この条例は、「保護すべき地域や種の指定」と「里地里山の活用促進・支援」が骨組みになっています。総合的な内容の条例で、これが制定されれば、サシバの里づくりがさらに進むことが期待されます。

二つ目は、「オーガニックビレッジ」宣言。町は生産者・流通業者・消費者による市貝町有機農業実施計画策定委員会を立ち上げて、「市貝町有機農業実施計画」を策定し、2023年度にこの宣言を行い、自然にも人にも優しい有機農産物の生産や消費を促進し、有機農法に取り組む農業者を増やしていく活動も進めています。

国際サシバサミット

渡り鳥であるサシバを保護するためには、繁殖地、渡りの中継地、越冬地といった生息域全域で取り組むことが大切です。そこで、サシバの研究者や保護活動家に加え、それらの地域の行政機関が実行委員会となり、国際サシバサミットが開催されることとなりました。記念すべき第1回は2019年に市貝町で開催され、日本のみならず、台湾やフィリピンからも関係者が集まりました。サミットでは、生息域全域での取り組みや持続可能な地域づくり、生物多様性豊かな里山維持の重要性が確認されました。その後は、第2回が2021年10月に沖縄県宮古島市で(オンライン開催)、第3回が2023年10月に台湾南部の墾丁(ケンティン)国立公園で開催されました。今年(2024年)の3月には、第4回がフィリピン北部のサンチェスマラ市で開催されます。サミットへ参加する国や地域も、当初の日本、台湾、フィリピンの他、第3回には韓国やタイも加わりました。保護の輪が、サシバの生息地である東アジアから東南アジア一帯に広がりつつあります。

おわりに

2022年12月に、カナダのモントリオールで開催された「国連生物多様性条約締約国会議」で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組み」では、2030年までに、これまで減少傾向であった生物多様性の状態を、回復軌道に乗せるというネイチャーポジティブを目指す目標が掲げられました。これは、今まで自然は開発され、生物多様性は失われる一方でしたが、その流れを反転させ、回復させようというものです。日本においてネイチャーポジティブを実現するためには、里山環境を形成する農村地域において生物多様性の劣化を食い止め、回復させることが大きなカギとなるでしょう。市貝町でのサシバと人の共生を目指す「サシバの里づくり」の取り組みはささやかなものですが、日本のネイチャーポジティブの推進に、少しでも寄与できればと思っています。

令和5年度油等汚染事故対策水鳥救護研修報告

WRV事務局 二階堂仁美

令和5年度の油等汚染事故対策水鳥救護研修を、環境省水鳥救護研修センター（東京都日野市）で開催しました。本年度は現場救護リーダー向けを第1回と第2回（10月23日・24日、11月9日・10日）、行政担当者向けを第3回（12月13日・14日）として実施し、動物園水族館関係者や獣医師、鳥獣保護行政担当者、野生動物関連のボランティア等、様々な立場の方々にご参加頂きました。

研修では、各分野の専門知識を持った講師により、油の性質や油等汚染事故の基礎知識、情報体制の整備や具体的な体制づくり、水鳥の生態、油汚染鳥の救護・治療・リハビリ等に関する実体験を交えた講義がそれぞれ行われ、参加者の方々はこの講義にも積極的に臨んでいる様子でした。

また、座学だけではなく、水鳥専用リハビリプール（ワイルドライフ・レスキュー・システム）の展張・撤去作業や、重油と鳥の羽を使った実験を行い、現場における準備作業の重要性とともに、重油のにおいや羽に付着した様子も実感していただきました。更に、油に汚染されたという想定で、生体（アイガモ）を使った洗浄実習を行い、検査や強制給餌、実践的な洗浄方法等も学んでいただきました。

参加者の方々からは、「今回得られた知識と技術を野鳥救護現場で活かしたい」「洗浄の大変さを、事故が起こる前に知ることができてよかった」等の声を頂戴いたしました。

また、交流会では、講師や参加者の方々が様々な立場の意見を出し合い、親睦を深めました。ここでの交流が、今後の体制づくり、そして有事の際のスムーズな行動の実現に繋がるよう、心より願っております。



研修講義風景



水鳥専用リハビリプール展張体験



洗浄実習の様子



修了証授与式

上記の第1回から第3回の研修に加え、令和6年2月16日には、茨城県水戸市において現地研修を開催しました。この現地研修には、茨城県と周辺地域の行政担当者や、獣医師の方々にご参加いただくことができました。

当日は、野鳥の会茨城県の池野進氏に、茨城県における水鳥の生息状況を含めた「茨城県の水鳥類について」と題した講義をご担当いただき、海上災害防止センターの萩原貴浩氏には、「油等流出事故の基礎知識」についてご講義いただきました。WRVからは箕輪事務局長が、油等流出事故に備えた「事前準備と事故対応」についての講義を、神奈川支部の皆川支部長が、「油等汚染鳥の救護法」について、実際に洗浄している様子のビデオを上映しながら講義を行いました。

茨城県で初めて開催された今回の研修が、地元の方々にとって、今後に向けて有意義なものとなったならば幸いです。

終わりに、一連の研修開催にあたり御協力をいただきました、一般社団法人海上災害防止センター、日本環境災害情報センター、公益財団法人日本野鳥の会等、関係者の皆さま方に心から御礼申し上げます。



現地研修の講義風景

◆令和6年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」◆

WRV事務局長 箕輪 多津男

本年もこれまでと変わらず、(公財)日本鳥類保護連盟及び(公財)日本野鳥の会との共催により、「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」を実施いたします。

令和6年度のキャンペーンに関して、当協会あてにご協賛いただきました団体(または企業)は、それぞれ以下の通りとなっております。ポスターにも既にご芳名を掲載させていただきましたが、今回も関係各位より多大なるご協力を賜わり、誠にありがとうございました。ここに深く御礼申し上げます。

<ヒナを拾わないでキャンペーン/協賛団体リスト> (団体:五十音順)

公益社団法人 愛知県獣医師会	公益社団法人 秋田県獣医師会
公益社団法人 石川県獣医師会	公益社団法人 茨城県獣医師会
一般社団法人 岩手県獣医師会	公益社団法人 大阪市獣医師会
公益社団法人 大阪府獣医師会	公益社団法人 岡山県獣医師会
公益社団法人 鹿児島県獣医師会	公益社団法人 北九州市獣医師会
公益社団法人 岐阜県獣医師会	公益社団法人 京都市獣医師会
公益社団法人 京都府獣医師会	株式会社 共立商会
公益社団法人 神戸市獣医師会	公益社団法人 滋賀県獣医師会
公益社団法人 静岡県獣医師会	NPO 法人 自然環境アカデミー
全国愛鳥教育研究会	高尾霊園犬猫墓地
公益社団法人 千葉県獣医師会	東京環境工科専門学校
公益社団法人 東京都獣医師会	公益財団法人 動物臨床医学研究所
中津動物病院	一般社団法人 長野県獣医師会
公益社団法人 名古屋市獣医師会	公益社団法人 奈良県獣医師会
公益社団法人 新潟県獣医師会	公益社団法人 日本獣医師会
一般社団法人 日本小動物獣医師会	公益社団法人 日本動物病院協会
馬場動物病院	一般社団法人 兵庫県獣医師会
公益社団法人 広島県獣医師会	文永堂出版 株式会社
公益社団法人 北海道獣医師会	一般社団法人 宮崎県獣医師会
武蔵村山ペットメモリアルパーク	森久保CAメディカル 株式会社
野生動物リハビリテーター協会	公益社団法人 山口県獣医師会
公益社団法人 横浜市獣医師会	公益社団法人 和歌山県獣医師会

会員の皆様には、このニュースレターとともに本年度のポスターを同封させていただきましたが、本キャンペーンの主旨をお汲み取りいただき、今後ともその普及のため、お力添えいただければ幸いです。

本キャンペーンも、1995年にスタートしてから今年で30周年を迎えることとなりましたが、これからも人と野鳥のあるべき関係性のさらなる普及に向けて、末永く努力を続けてまいりたいと存じます。

なお、あらゆる野生生物と私たち人との共生の実現、そして生物多様性と掛けがえのない生態系の保全を実現していくために、WRVでは活動を継続してまいりますので、皆様のより一層のご支援とご協力を、改めてよろしくごお願い申し上げます。

「コウノトリと暮らすまち」 (佐竹 節夫 著)

本書は、兵庫県豊岡市を拠点に、長年に渡りコウノトリの野生復帰、およびそれに伴う様々な環境整備やまちづくりに邁進され、現在、日本コウノトリの会の代表を務めておられる佐竹節夫氏による力作です。

文献等をもとにした江戸時代から、明治・大正期、そして戦後に至るコウノトリの変遷に関する著述から始まり、その後の野生絶滅と新たな人工飼育の経過や放鳥までの道のり、一方で、その間の周辺の自然植生や湿地を中心とする環境の整備、環境創造型農業の試みと地元の人々との共生意識の醸成やまちづくりの推進、さらには日本全国そして中国や韓国といった周辺国との連携を基にした世界戦略に至るまで、本書を繙くことにより、一連のコウノトリにまつわる歴史の全体像を、読者は十分に知ることができるでしょう。同時に、こうした様々な事業に携わってこられた関係者の姿も丹念に描き出されており、多くの人々のそれぞれの尽力があってこそ、今日の成果が得られたことを改めて実感させられる構成となっています。

私自身、佐竹氏と初めてお会いしてから早 30 年近くが経ちますが、当時のおよそ役所(豊岡市)の職員とは思えない独創的な発想と大胆な行動力、そしてコウノトリへの深い愛情とまちづくりに掛ける情熱は、一向に衰えぬどころか、益々盛んになっているとの感を今も受け続けております。まさに人生をかけてきた一大事業の一つの区切りとして、本書のもつ意味は実に大きなものがあるのではないのでしょうか。

なお、コウノトリの野生復帰事業は、全国展開に向けて重要なステージを迎えようとしております。これから WRV の会員の方々の地元にも、それぞれコウノトリが出現する可能性は十分にあり得ますので、その前に本書によってこれまでの経緯を一通り知っていただくことを、是非お勧めしたい次第です。

(WRV 事務局長 箕輪 多津男)



「コウノトリと暮らすまち」 佐竹 節夫 著

本体価格 : 2,000円 (税別) サイズ : 四六判 ページ : 320ページ
 発行日 : 2023年11月30日 出版社 : (一社) 農山漁村文化協会
 ◆問い合わせ先◆ (一社) 農山漁村文化協会 〒335-0022 埼玉県戸田市上戸田2-2-2
 Tel) 048-233-9351 Fax) 048-299-2812

事務局日誌 2023.12.16~2024.3.15

=== 12月 ===

- | | |
|---|---------------|
| 16,17,21: 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 16,17,21: 神奈川県野生動物リハビリテーター(2級)養成講座(実習: 犬猫・野生動物救護センター) [神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 17: ボタン園動物フェスティバル (東松山ボタン園) | 対応: 新妻 |
| 18: 事業に関する打合せ等 (日本獣医生命科学大学) | 対応: 加藤、箕輪 |
| 19: 神奈川県鳥獣総合対策協議会 (神奈川自治会館) [神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 21: 日本獣医師連盟四役会 (日本獣医師会役員室) | 出席: 小松 |
| 21: 日本獣医師会・日本獣医師連盟年末省庁挨拶回り (農林水産省、厚生労働省、文部科学省、内閣府、財務省) | 対応: 小松 |
| 21: 「北海道における海ワシ類のバードストライク」(講師: 齊藤慶輔先生・さっぽろ自由学校「遊」、オンライン) | 対応: 小山 |
| 23: 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 22: 東京都獣医師会理事会 (東京都獣医師会会議室) | 出席: 小松、中川、高橋 |
| 23: 2023年度日本鳥類標識協会大会 (オンライン) | 対応: 小山 |
| 24~2/29: ツグミ(身近な冬鳥)パネル展示(野毛山動物園) [神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 25: WRV ニュースレターNo.127 発行 | 対応: 小松、箕輪、二階堂 |
| 25: 令和5年度第4回わいわいサロン(ハイブリット開催) [神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 26: 「タンチョウレスキューの現場から」(講師: 飯間裕子先生・さっぽろ自由学校「遊」、オンライン) | 対応: 小山 |

=== 1月 ===

- | | |
|--|--------|
| 06,07,11,20,21,25: 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] | 対応: 皆川 |
|--|--------|

- 06,07,11,20,21,25：神奈川県野生動物リハビリテーター(2級)養成講座(実習：犬猫・野生動物救護センター) [神奈川支部] 対応：皆川
 08：練馬区獣医師会新年回 (池袋ホテルメトロポリタン) 出席：新妻、町田、倉林
 10：ペット産業賀詞交換会 (都市センターホテル) 対応：小松
 16：東京都医師会との会合 (東京都医師会館) 対応：小松、中川、高橋
 20：ぐんまの自然の「いま」を伝える特別展・報告会 (群馬県立自然史博物館) 対応：加藤
 23：WRV 会計に関する打合せ (立川事務所) 対応：小森、箕輪
 30：南多摩獣医師会 第2回全体会議及び新年会 (聖蹟桜ヶ丘旭寿司) 対応：小松、大窪、御厨
- === 2月 ===
- 01：犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応：皆川
 01：神奈川県野生動物リハビリテーター(2級)養成講座(実習：犬猫・野生動物救護センター) [神奈川支部] 対応：皆川
 04：通話方法研究会・研修会 (吉祥寺恵比寿) 出席：新妻
 06：厚木市立玉川小学校1年生の学習指導 [神奈川支部] 対応：皆川
 08：第59回東京都獣医師連盟総代会及び情報交換会 (京王プラザホテル) 対応：小松
 08~12：さがみ自然フォーラム (アミューあつぎ) [神奈川支部] 対応：皆川
 11：第85回日本野生動物医学会理事会 (Web開催) 対応：羽山、加藤
 11：令和5年度第5回わいわいサロン (オンライン) [神奈川支部] 対応：皆川
 14：日本獣医師会ワンヘルスセミナー・ワンヘルス推進関係者懇談会 (明治記念館) 対応：小松、中川
 14：日本獣医師連盟会計監査会・役員会・総会 (明治記念館) 対応：小松
 15：茨城県庁、茨城県獣医師会 訪問 対応：箕輪、二階堂
 16：令和5年度油汚染事故対策水鳥救護研修 現地研修 (水戸市：茨城県薬剤師会館) 対応：皆川、箕輪、二階堂
 17：2023年度第5回獣医疫学会担当理事・幹事会 (Web開催) 対応：加藤
 17：犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応：皆川
 17：全国再エネ問題連絡会会議 (オンライン) 対応：小山
 18：高橋三男旭日小綬章受賞祝賀会 (パレスホテル大宮) 対応：小松
 18：パードウォッチング入門イベント (野毛山動物園) [神奈川支部] 対応：皆川
 19：令和6年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」協賛団体確定 対応：箕輪
 20：神奈川県傷病鳥獣保護連絡協議会 (オンライン) [神奈川支部] 対応：皆川
 22：犬猫の殺処分ゼロをめざす動物愛護議員連盟会議 (自由民主党会館) 対応：小松
 25：神奈川県野生動物リハビリテーター(2級) 第20期生認定式・歓迎交流会 [神奈川支部] 対応：皆川、箕輪
 25：宮沢孝幸先生講演会「動物とヒトとコロナウイルスとワクチン戦略」(東上パールビル第3会議室) 対応：小山
 27：日本コウノトリの会・役員会 (オンライン) 対応：箕輪
 28：獨協医療研修会 (エクシブ湯河原) 出席：新妻
 28：令和5年度山梨県特定外来生物(アライグマ)対策会議 (山梨県防災新館) 出席：加藤
- === 3月 ===
- 01~31：第19回動物たちのSOS展・ブース(02~03)・パネル展示 (野毛山動物園) [神奈川支部] 対応：皆川
 03：かながわ海岸美化財団 海ごみセミナー・ハイブリット交流会 [神奈川支部] 対応：皆川
 04：厚木市立玉川小学校6年生の学習指導 [神奈川支部] 対応：皆川
 09：WRV 監査 対応：新妻、町田、高橋、小森、箕輪
 09：WRV 東京都支部監査 対応：新妻、高橋、小森、箕輪
 10：令和5年度神奈川県野生動物リハビリテーター研修会・更新講習会 (地球市民かながわプラザ) [神奈川支部] 対応：皆川
 11：冷凍庫の交換 (環境省水鳥救護研修センター) 対応：二階堂
 12：神奈川県鳥獣総合対策協議会シカ対策専門部会 (波止場会館) [神奈川支部] 対応：皆川
 15：千葉県環境審議会鳥獣部会アライグマ小委員会 (千葉県森林会館) 対応：加藤
 15：令和5年度「ヒナを拾わないで!!」ポスター 入荷 対応：箕輪

野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 128 2024.3.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：小松 泰史 編集担当：箕輪多津男